

富士箱根伊豆国立公園箱根地域  
ニホンジカ対策の経過と現状

## 目次

第1章 箱根地域及び仙石原湿原における対策の経過	1
1. 箱根地域における対策の経過	1
(1) 環境省（富士箱根伊豆国立公園管理事務所）	1
(2) 神奈川県	2
(3) 箱根町	2
(4) 静岡県	3
(5) 東京神奈川森林管理署	3
2. 仙石原湿原における対策の経過	4
第2章 箱根地域におけるシカ対策の現状の整理	6
0. 箱根地域の主な山地名、地区名、地域名	6
1. 植生の保護	7
(1) 仙石原湿原における植生調査	7
(2) 箱根地域における希少種生育状況	8
(3) 箱根地域における植生への影響（簡易植生モニタリング調査）	8
(4) 植生保護柵設置状況	11
(5) 植生保護柵の効果検証（コントロールフェンス法）	12
2. シカの個体群管理	15
(1) 神奈川県	15
(2) 箱根町	16
(3) 静岡県	17
(4) 東京神奈川森林管理署	17
(5) 駒ヶ岳モデル地区	18
3. シカの生息地管理	18
(1) 箱根町におけるシカに関する被害通報件数	18
(2) ゴルフ場における防鹿柵設置状況	19
4. シカの生息状況に係るモニタリング及び評価	20
(2) 自動撮影カメラによる調査	23
(3) 周辺域における情報収集	29
(4) DNA分析	29
5. 普及啓発	30
(1) 植生調査等を通じた普及啓発（指標植物モニタリング）	30
(2) 広報を通じた普及啓発	31
(3) 各種団体との協力や各種会合を通じた普及啓発	32
6. 関係する計画	33

## 第1章 箱根地域及び仙石原湿原における対策の経過

### 1. 箱根地域における対策の経過

#### (1) 環境省（富士箱根伊豆国立公園管理事務所）

	対策の内容	対策の場所
平成 21 年度 (2009 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 糞塊密度調査</li> <li>● ヒアリング調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 箱根地域</li> <li>● 箱根地域</li> </ul>
平成 22 年度 (2010 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中規模植生保護柵の設置</li> <li>● 中規模柵植生モニタリング(H22-R1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 箱根地域(5ヶ所)</li> <li>● 箱根地域(5ヶ所)</li> </ul>
平成 23 年度 (2011 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 植生調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仙石原湿原</li> </ul>
平成 24 年度 (2012 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 植生基本図の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仙石原湿原</li> </ul>
平成 26 年度 (2014 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動撮影カメラによる生息状況調査(H26-)</li> <li>● 仙石原湿原内の食痕調査(H26-H30)</li> <li>● Web アンケートフォームによるシカ目撃情報の収集(H26-R1)</li> <li>● 踏査による生息状況調査</li> <li>● シカの由来を調べるためのDNA分析</li> <li>● 仙石原湿原の植生保護柵の設計・調整(H26-R2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 箱根地域</li> <li>● 仙石原湿原</li> <li>● 箱根地域</li> <li>● 箱根地域</li> <li>● 箱根地域</li> <li>● 仙石原湿原</li> </ul>
平成 27 年度 (2015 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 簡易植生モニタリングによる影響度評価</li> <li>● 普及啓発を目的としたシンポジウム及びワークショップの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 箱根地域</li> <li>● 箱根地域</li> </ul>
平成 28 年度 (2016 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 提言のとりまとめ(H28.8)</li> <li>● 仙石原湿原の植生保護柵に係るワークショップの開催</li> <li>● 仙石原湿原植生保護柵設置のための測量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 箱根地域</li> <li>● 仙石原湿原</li> <li>● 仙石原湿原</li> </ul>
平成 29 年度 (2017 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仙石原湿原での植生保護柵の設置(H29-R3)</li> <li>● 仙石原湿原植生保護柵設置のための追加測量</li> <li>● 仙石原湿原植生保護柵モニタリングのための自動撮影カメラ設置(H29-)</li> <li>● 富士箱根伊豆国立公園箱根地域生態系維持回復事業計画の策定(H29.10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仙石原湿原</li> <li>● 仙石原湿原</li> <li>● 仙石原湿原</li> <li>● 箱根地域</li> </ul>
平成 30 年度 (2018 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小規模柵植生モニタリング(H30-R2)</li> <li>● 仙石原湿原植生保護柵の整備及び管理に関する協定書(H30.4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 箱根地域(3地域)</li> <li>● 仙石原湿原</li> </ul>
令和 1 年度 (2019 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士箱根伊豆国立公園箱根地域生態系維持回復事業ニホンジカ管理実施計画策定(H31-R5)</li> <li>● 箱根周辺ゴルフ場ヒアリング実施(R1-R2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 箱根地域</li> <li>● 箱根地域</li> </ul>
令和 2 年度 (2020 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸のシカ生息状況モニタリングのための自動撮影カメラ設置(R2-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸</li> </ul>
令和 3 年度 (2021 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 簡易植生モニタリングによる影響度評価</li> <li>● 指標植物モニタリングによる試験調査</li> <li>● レッドデータブック記載希少種の生育状況調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 箱根地域</li> <li>● 箱根地域</li> <li>● 箱根地域</li> </ul>
令和 4 年度 (2022 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 柵設置優先地区で植生保護柵設置</li> <li>● 柵設置優先地区で植生調査(R4-R5)</li> <li>● 中央火口丘に自動撮影カメラ設置(R4-)</li> <li>● 駒ヶ岳モデル地区設定(R4-)</li> <li>● 生態系保全等専門員の配置(R4-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 二子山</li> <li>● 二子山</li> <li>● 駒ヶ岳・二子山</li> <li>● 駒ヶ岳</li> </ul>

		● 国立公園管理事務所
令和5年度 (2023年)	● 簡易植生モニタリングによる影響度評価の追加調査 ● 柵設置優先地区に植生保護柵設置  ● 富士箱根伊豆国立公園箱根地域ニホンジカ管理協議会設立	● 箱根地域 ● 駒ヶ岳・神山、 金時山、台ヶ岳 ● 箱根地域
令和6年度 (2024年)	● 富士箱根伊豆国立公園箱根地域ニホンジカ管理計画」策定(R6-R10)	● 箱根地域

※()内は継続の事業期間を示す。現在継続中の場合は「開始年-」と示す。

## (2) 神奈川県

	対策の内容	対策の場所
平成17年度 (2005年)	● 区画法調査を実施(H17-)	● 箱根地域
平成18年度 (2006年)	● 第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画の策定(H19.3) 箱根地域：監視区域	● 箱根地域
平成19年度 (2007年)	● 糞塊法調査を実施(H19-)	● 箱根地域
平成23年度 (2011年)	● 第3次神奈川県ニホンジカ保護管理計画の策定(H24.3) 箱根地域：分布拡大防止区域	● 箱根地域
平成27年度 (2015年)	● 第3次神奈川県ニホンジカ管理計画に改定(H27.5) ● 市町村等による管理捕獲の実施(H27-)	● 箱根地域 ● 箱根地域
平成28年度 (2016年)	● 階層ベイズ法による個体数推定の実施(H28-)  ● 第4次神奈川県ニホンジカ管理計画の策定(H29.3) 箱根地域：定着防止区域	● 定着防止区域 (南) ● 箱根地域
平成29年度 (2017年)	● 県による高標高地域における管理捕獲の実施(H29-)	● 明神ヶ岳
令和4年度 (2022年)	● 第5次神奈川県ニホンジカ管理計画の策定(R5.3) 箱根地域：定着防止区域 ● 箱根山地域広域捕獲計画の策定(R5.3)	● 箱根地域 ● 神奈川-静岡県境

※()内は継続の事業期間を示す。現在継続中の場合は「開始年-」と示す。

## (3) 箱根町

	対策の内容	対策の場所
平成26年度 (2014年)	● 箱根町鳥獣被害防止計画の策定(H26.3) ● 管理捕獲の実施(H26-)	● 箱根地域
平成28年度 (2016年)	● 箱根町鳥獣被害防止計画の策定(H29.3)	● 箱根地域
平成30年度 (2018年)	● 仙石原湿原植生保護柵の整備及び管理に関する協定書(H30.4)	● 仙石原湿原
令和2年度 (2020年)	● 箱根町鳥獣被害防止計画の策定(R2.3)	● 箱根地域
令和5年度 (2023年)	● 箱根町鳥獣被害防止計画の策定(R5.3)	● 箱根地域

※()内は継続の事業期間を示す。現在継続中の場合は「開始年-」と示す。

#### (4) 静岡県

	対策の内容	対策の場所
平成 23 年度 (2011 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 糞粒法による生息密度調査を実施(H23-)</li> <li>● 第二種特定鳥獣保護管理(ニホンジカ) (第 3 期) の策定(H24.3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸及び小山町</li> </ul>
平成 28 年度 (2016 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第二種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ) (第 4 期) の策定(H29.3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸及び小山町</li> </ul>
令和 3 年度 (2021 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 管理捕獲 (捕獲困難地捕獲) を実施(R3-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小山町</li> </ul>
令和 3 年度 (2021 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第二種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ) (第 5 期) の策定(R4.3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸及び小山町</li> </ul>
令和 4 年度 (2022 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生息頭数の推定方法として捕獲頭数等に基づく階層ベイズモデルの導入</li> <li>● 箱根山地域広域捕獲計画の策定(R5.3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸及び小山町</li> <li>● 神奈川-静岡県境</li> </ul>
令和 5 年度 (2023 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 管理捕獲 (捕獲困難地捕獲) の対象範囲を拡大(R5-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸及び小山町</li> </ul>

※() 内は継続の事業期間を示す。現在継続中の場合は「開始年-」と示す。

#### (5) 東京神奈川森林管理署

	対策の内容	対策の場所
平成 22 年度 (2010 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 植生保護柵の設置(H22-H28)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸</li> </ul>
令和 2 年度 (2020 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動撮影カメラによる生息状況調査(R2-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸、駒ヶ岳・神山、台ヶ岳</li> </ul>
令和 4 年度 (2022 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸林道における試験的な捕獲の実施(R4-)</li> <li>● 柵設置優先地区での植生保護柵設置に係る調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦ノ湖西岸</li> <li>● 駒ヶ岳</li> </ul>
令和 5 年度 (2023 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 柵設置優先地区に植生保護柵設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 駒ヶ岳・神山</li> </ul>

※() 内は継続の事業期間を示す。現在継続中の場合は「開始年-」と示す。

## 2. 仙石原湿原における対策の経過

経過			植生背景
江戸時代			● 火入れによる植生維持が図られる
昭和9年 (1934年)	1月	国の天然記念物に指定される	● ノハナシヨウブの群生地
昭和45年 (1970年)	4月		● 最後の火入れが行われる
昭和50年 (1975年)	5月	自然公園法の特別保護地区に指定される	● 湿原内の立ち入りが禁止され、植生遷移が進む
昭和55年 (1980年)			● ススキやヨシの丈が高くなり、ハンノキなどの樹木が目立ち始める
昭和60年 (1985年)		仙石原湿原実験区ができる	● 翌年より10年間、野焼き、草刈りの実験・調査が行われる ● 夏場の草刈り、冬場の火入れを組み合わせた手法が導入され、湿原植生の回復を図る
平成元年 (1989年)			● 台ヶ岳側の火入れが試験的に再開される ● ススキ草原が再生され始める
平成2年 (1990年)			● 湿原側のトラスト寄贈緑地などに密生するハコネダケ群生地(1ha)の刈り取りを年2回行う ● 県有地周囲柵沿い(幅10m / 面積2ha)を防火帯としてススキ刈り取りを毎年行う ● 県道沿いから灌木が目立つようになる
平成8年 (1996年)			
平成9年 (1997年)	12月	県自然保護課、県箱根地区公園管理事務所、箱根町企画室、湿生花園により仙石原湿原の検討会が開催される	
平成10年 (1998年)	4月・ 8月	上記に環境庁が加わり、「箱根仙石原湿原のあり方に係る検討会」が開催される ・管理方針 ・管理区分 ・火入れ導入 ・次年度以降の予算 ・実行委員会の組織化	
平成11年 (1999年)	8月	同検討会が2回開催される ・仙石原湿原保全のためのフレーム形成 仙石原湿原保全行政連絡会議 設立	
	10月	第1回仙石原湿原行政連絡会議 開催	
平成12年 (2000年)	4月	仙石原湿原保全計画 開始	
平成13年 (2001年)	3月		● 山焼き実行委員会により火入れが行われる(5,000m <sup>2</sup> )
平成22年 (2010年)	3月	箱根仙石原湿原モニタリング報告書 作成 仙石原湿原保全計画 終了	● 火入れの再開から10年経過
平成25年 (2013年)	3月	仙石原湿原保全計画書 第2期 策定	● 火入れと青草刈りを組み合わせて実施
平成30年 (2018年)	3月	仙石原湿原保全計画書 第2期 終了	

令和4年 3月 箱根仙石原湿原モニタリング報告書(2010－  
(2022年) 2020) 作成  
仙石原湿原保全計画書 第3期 策定

---

出典：平成26年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域における生態系維持回復のための調査業務  
：令和3年度富士箱根伊豆国立公園仙石原湿原保全及び利用に係る検討・計画策定業務





# 1. 植生の保護

## (1) 仙石原湿原における植生調査

仙石原湿原の植生は植生基本図としてまとめられている(図2-1-1)。また、仙石原湿原では、その他にも多くの植生モニタリング調査が行われており、本事業で実施された調査の一覧は平成29年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務報告書、仙石原湿原保全行政連絡会議が実施した調査は令和3年度富士箱根伊豆国立公園仙石原湿原保全及び利用に係る検討・計画策定業務報告書に整理されている。

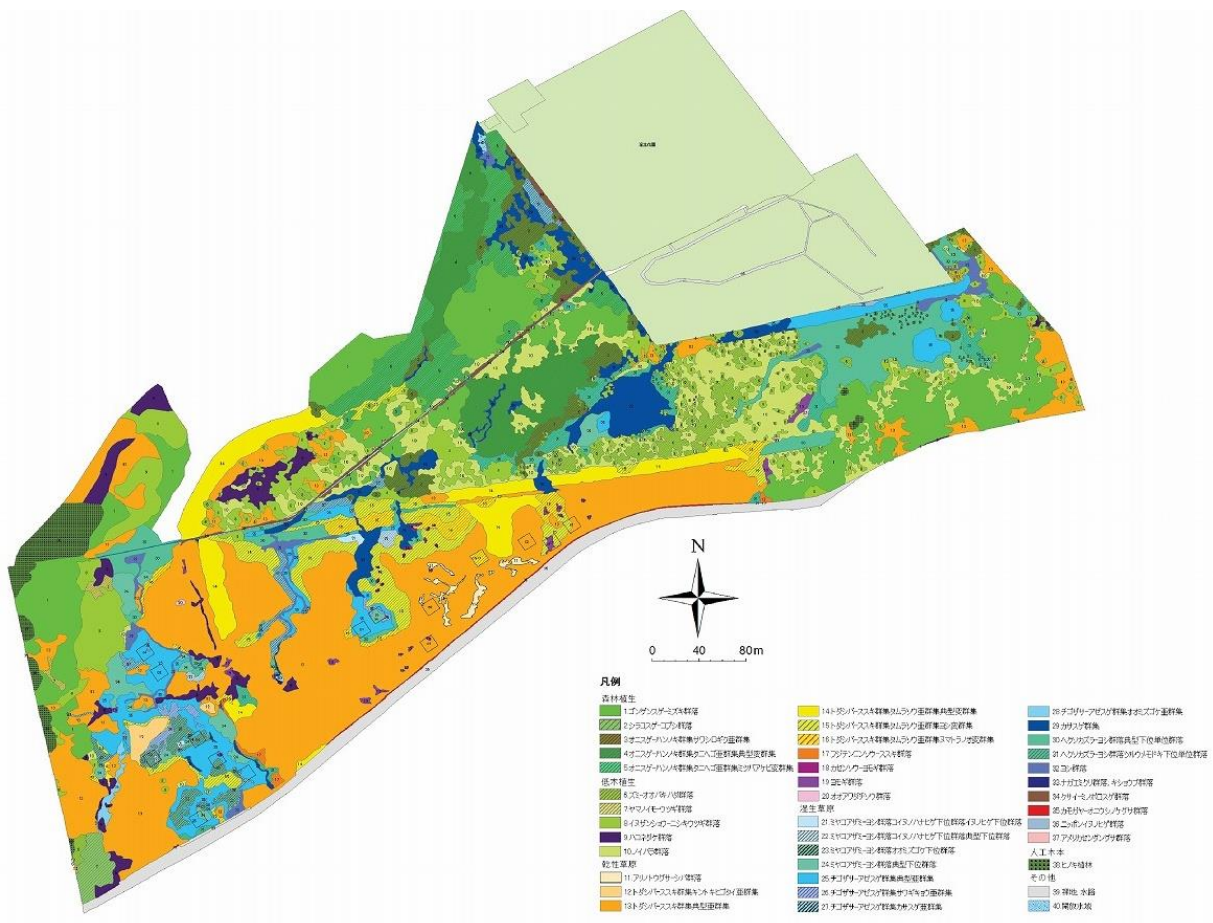


図2-1-1 仙石原湿原 植生基本図

出典：平成24年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域における生態系維持回復のための調査業務電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成

## (2) 箱根地域における希少種生育状況

レッドデータブックにおける希少種の生育状況は『神奈川県植物誌 2018』（神奈川県植物誌調査会）を参考とし、同植物誌で利用されている 1km メッシュで集計した。もっとも希少種が集中したメッシュは仙石原湿原を含むメッシュであった。次いで中央火口丘、金時山、三国山、明神ヶ岳・火打石岳で多かった。

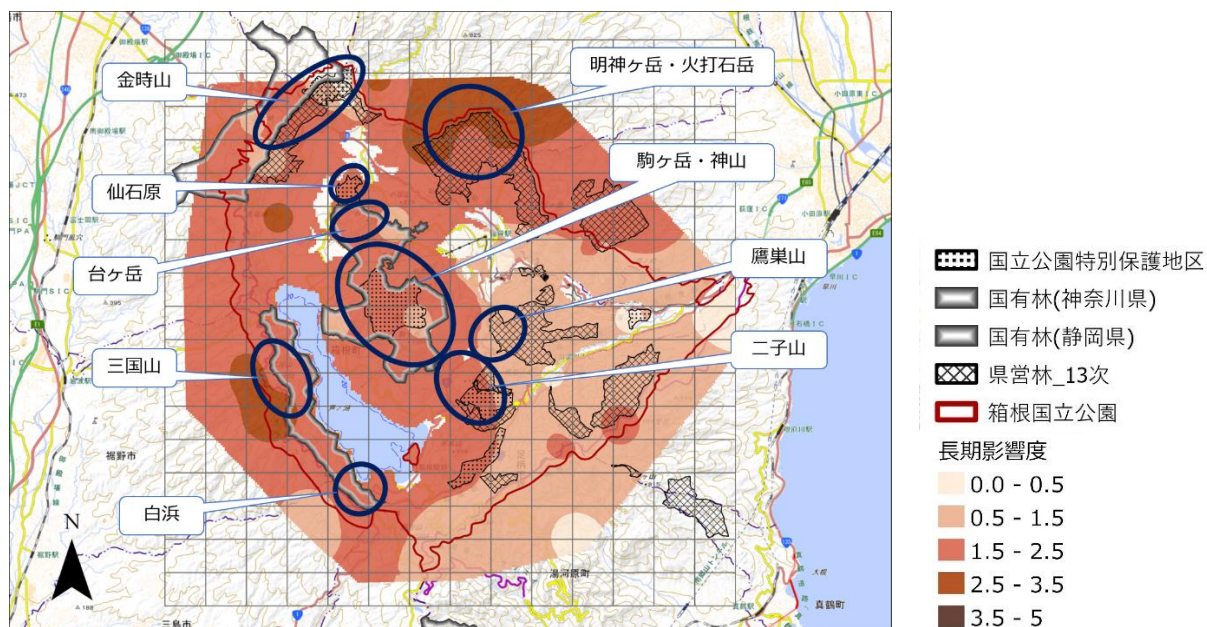


図 2-1-2 箱根地域における希少種の生育状況

※メッシュは希少種数を集計したメッシュを示す。

出典：令和 3 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務を一部改変  
電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成

## (3) 箱根地域における植生への影響（簡易植生モニタリング調査）

箱根地域においてシカが植生に与える影響を評価するために簡易植生調査を実施した。調査は、2015（平成 27）年度、2021（令和 3）年度に行われ、2023（令和 5）年度に範囲を拡張した部分について行われた。植生への影響は、影響度ランクで評価した。影響度ランクは 1 年以内の痕跡で評価される短期区分と総合的な植生の状況で評価される長期区分の 2 つとした（表 2-1-1）。調査の結果、短期区分は 2015 年時には目立つ範囲（短期区分 2）が限られていたが、2021 年にはほぼ全域が目立つ範囲とされた。長期区分は 2015 年時には植生衰退が激しいとされたのは明神ヶ岳と三国山だけであったが、2021 年には乙女峠及び中央火口丘で大きく広がった。2023 年に拡大された範囲についても多くの場所で植生衰退が認められた。

表 2-1-1 簡易植生モニタリングにおける影響度ランク

<9> 影響度ランク(現状に最も近い区分(短期&長期)に○をつける。条件が全て当てはまらなくても良い。)

短期区分	全階層における1年以内の採食痕、剥皮、角こすり	長期区分	木本の矮性化、枯死、不嗜好性の繁茂等
0	なし。	0	従来の植生が維持されている。高木性樹種の稚樹が生育。更新可能な状態。
1	少量見られる。部分的に見られる。	1	低木、スズタケに矮性化が見られる。不嗜好性以外の草本が小型化して非開花個体が増える。
2	目立つ。採食可能個体の半数以上に痕跡がある。	2	樹木に古新の樹皮剥ぎが目立つ。スズタケに枯死個体が見られ、他のササに矮性化が見られる。不嗜好性以外の草本の開花個体なし。
—	—	3	樹木に枯死個体を確認できる。スズタケは枯死個体が目立つ。不嗜好性植物が目立つ。ディアラインができる。
—	—	4	樹木に枯死個体が目立つ。全てのササ種に枯死個体が見られる。土壌侵食が見られ、これにより木本の根が露出。
—	—	5	植物がほぼ枯死。地表土壌が流出し、裸地(岩山)に近い状態になる。

出典：平成 27 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

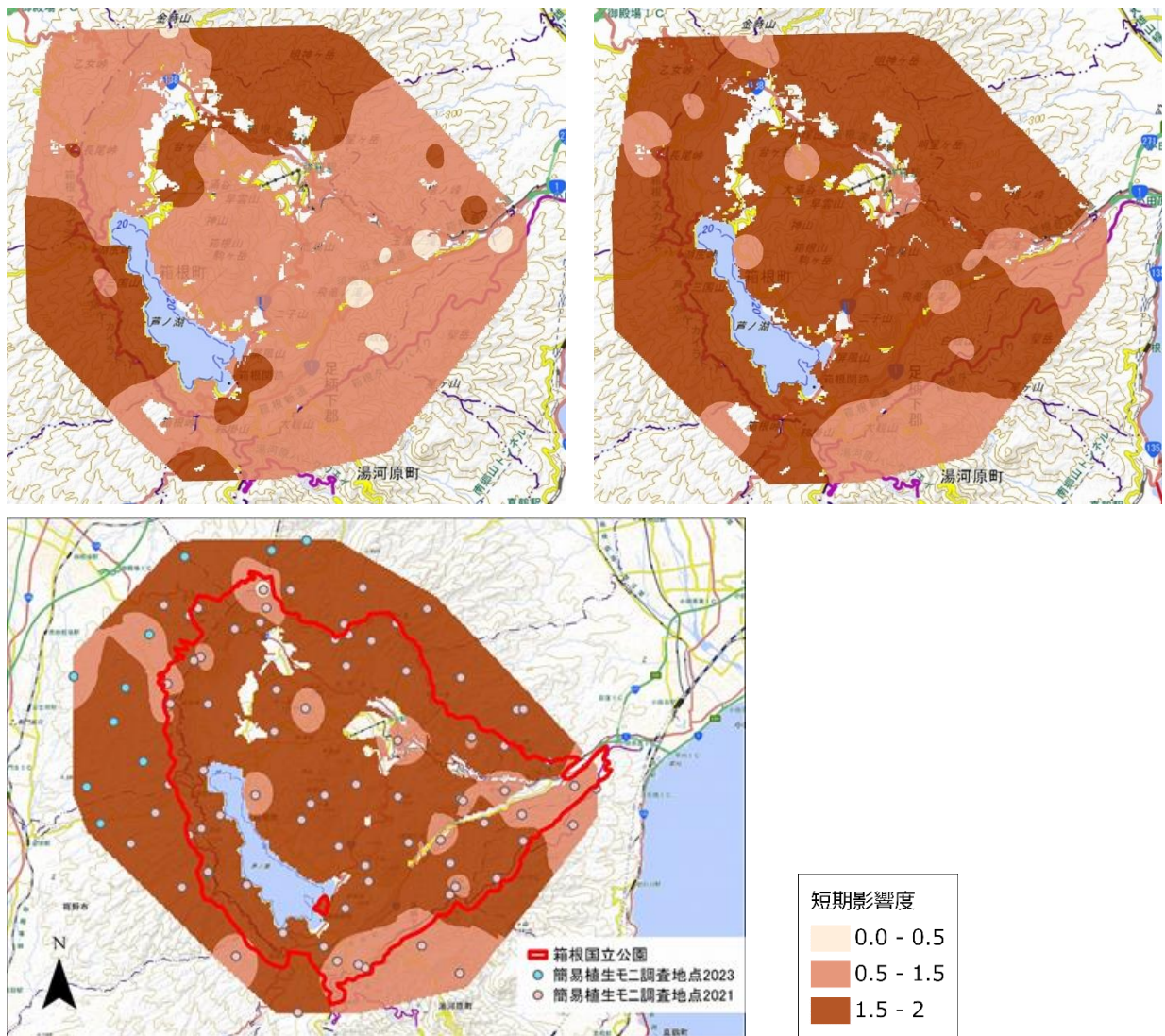


図 2-1-3 短期影響度 (上左 2015 年、上右 2021 年、下 2023 年)

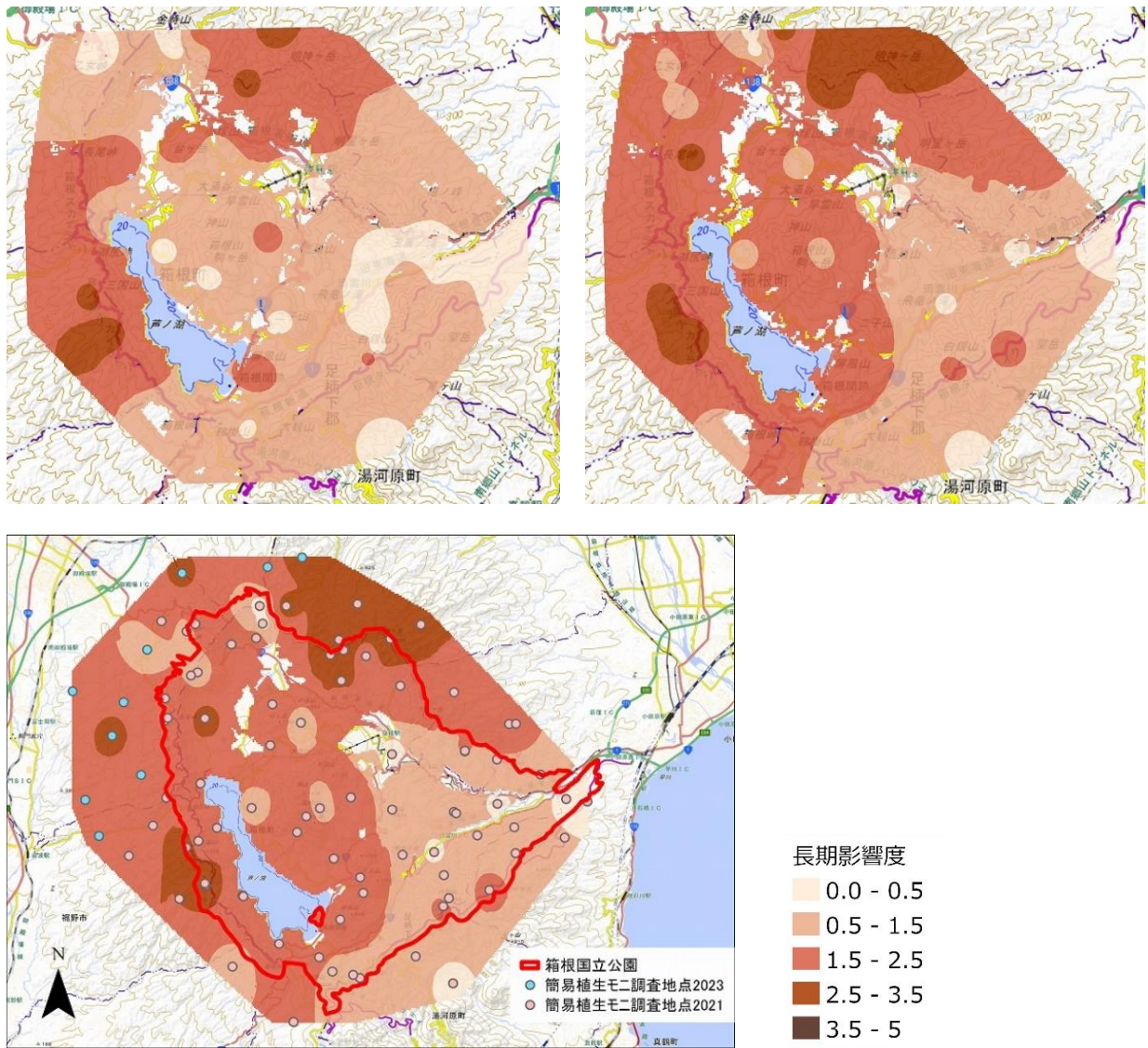


図 2-1-4 長期影響度（上左 2015 年、上右 2021 年、下 2023 年）

出典：平成 27 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

令和 3 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成

#### (4) 植生保護柵設置状況

箱根地域では 2010（平成 22）年度に駒ヶ岳、白浜、仙石原、長尾峠下、三国山の 5ヶ所に植生保護柵が設置されたのを始め、現在まで多くの植生保護柵が設置されている（表 2-1-2）。ここでは設置された植生保護柵を整理し、各柵の設置目的、維持管理の状況、モニタリング状況等をまとめた。

表 2-1-2 植生保護柵設置状況

実施主体	場所	設置数 周囲長	設置年	設置目的 維持管理状況 モニタリング状況等
環境省	駒ヶ岳、白浜、仙石原、長尾峠下、三国山	40m/基×5基 (1基/地点)	H22年度	柵設置優先地区における植生保護 1回/年以上の巡視 柵内外のモニタリング調査実施 (H22-R1)
環境省	仙石原湿原	2,225m	H29年度- R3年度	柵設置優先地区における植生保護 1回/月の巡視（環境省・箱根町） 自動撮影カメラによる柵内のシカ 侵入モニタリング実施(H29-)
環境省	二子山千畳敷	40m/基×1基	R4年度	柵設置優先地区における植生保護 1回/年以上の巡視 柵内外のモニタリング調査実施 (R4-R5)
環境省	駒ヶ岳・神山 金時山 台ヶ岳	42m/基×2基 50m/基×1基 40-44m/基×2基	R5年度	柵設置優先地区における植生保護 1回/年以上の巡視（予定）
箱根町	仙石原 1038 番地	973m/基×1基	H29-H30	新植造林木保護のための防鹿柵 1回/年の巡視
林野庁	芦ノ湖西岸	80-140m/基×12基	H22-H28	新植造林木保護のための防鹿柵 基本毎月巡視
林野庁	駒ヶ岳	23-34m/基×2基	R5年度	柵設置優先地区における希少種保 護 隔月巡視
林野庁	駒ヶ岳	43m/基×1基	R6 予定	柵設置優先地区における希少種保 護 隔月巡視

(5) 植生保護柵の効果検証（コントロールフェンス法）

① 中規模柵植生モニタリング

環境省では 2010（平成 22）年に長尾峠下、白浜、仙石原、三国山、駒ヶ岳の 5ヶ所に各 1 基の植生モニタリング柵を設置し、以後 2019（令和 1）年度まで毎年、パークボランティアの協力を得て、柵内外の植生調査を実施している。その結果、5 箇所すべてでシカの影響が検出された（表 2-1-3）。なお、第 1 期計画では「中規模柵植生モニタリング」は「植生モニタリング」と呼称していた。

表 2-1-3 指標値及び評価方法別にまとめた中規模柵植生モニタリングのシカ影響

		駒ヶ岳	三国山	仙石原	長尾峠下	白浜
出現種数	単年度			◎		
	経年変化	○	○	○ / △	○ / △	○
植被率 (プロット)	単年度	◎				◎
	経年変化	○ / △	○ / △	○	△	△
植被率 (種毎)	単年度	◎	○	○	○	◎
	経年変化	—	—	—	—	—
多様度指数 (全種データ)	単年度			◎		
	経年変化		○			○
多様度指数 (抽出データ)	単年度			◎		
	経年変化		○	△		
Bray-Cutis の非類似 度指数 (BC 値)	単年度	—	—	—	—	—
	経年変化	◎	○			○

- ◎： 有意なシカの影響が検出された。
- ： シカの影響が強く示唆されたが有意差はなかった。
- △： 統計解析はしていないが、シカの影響があると強く示唆される傾向が認められる。
- ： 解析していないことを示す。

出典：令和元年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

## ② 小規模柵植生モニタリング

短期間かつ簡便にシカの影響を検出し、植生衰退の状況を早期に把握するために小規模柵植生モニタリングが実施された。小規模柵は2018（平成30）年度に三国山、明神ヶ岳、駒ヶ岳に1.5m×1.5mのコドラートを柵内、柵外それぞれ5基設置した。調査は、同年から2020（令和2）年まで柵の内外の植生を記録することにより行った。その結果、3地域すべてでシカの影響が検出された（表2-1-4）。特に三国山と明神ヶ岳の植被率は直近2年でも有意に減少しており、現在も過度なシカ採食圧にさらされている可能性が示唆された。なお、第1期計画では「小規模柵植生モニタリング」は「希少植生モニタリング」と呼称していた。

表 2-1-4 植生調査の項目別シカの影響評価

		比較年	駒ヶ岳	三国山	明神ヶ岳
全種		2018-2019	◎	△	○
		2019-2020	○	◎	○
		2018-2020	○	△	◎
種数	木本	2018-2019		◎	
		2019-2020		○	
		2018-2020		◎	
草本		2018-2019		○	
		2019-2020		○	
		2018-2020		◎	
植生高		2018-2019	◎	◎	△
		2019-2020	—	◎	◎
		2018-2020	◎	◎	◎
被度		2018-2019	◎	◎	◎
		2019-2020	—	◎	◎
		2018-2020	—	◎	◎

◎ 有意なシカの影響が検出された。

○ シカの影響が強く示唆されたが有意差はなかった。

△ 統計解析はしていないが、シカの影響があると強く示唆される傾向が認められる。

— シカの影響は検出できなかった。

出典：令和2年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

### ③ 二子山植生保護柵モニタリング

二子山の千畳敷にて希少種を保護する目的で 2022（令和 4）年度に植生保護柵が設置された。同年及び 2023（令和 5）年に植生調査を実施し、柵の内外で比較した。その結果、植生高、被度ともに有意なシカの影響が認められ、柵外ではシカの強い採食圧を受けていることが示唆された（表 2-1-5）。

表 2-1-5 植生調査の項目別シカの影響評価

全種	出現種数の増減			植生高 (種数)	植生高 (量)	被度 (種数)	被度 (量)
	木本	草本	その他				
△	△	△	△	△	◎	△	◎

- ◎ 有意なシカの影響が検出された。
- シカの影響が強く示唆されたが有意差はなかった。
- △ 統計解析はしていないが、シカの影響があると強く示唆される傾向が認められる。
- シカの影響は検出できなかった。

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

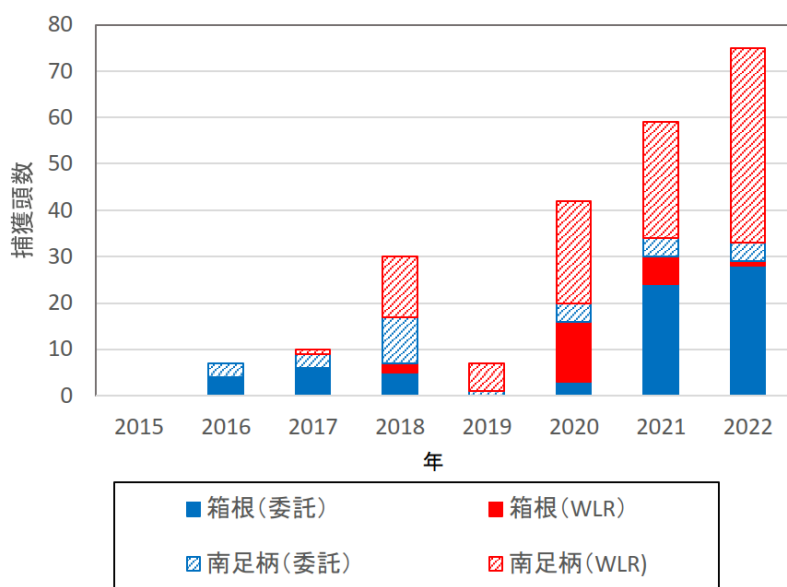


## 2. シカの個体群管理

### (1) 神奈川県

神奈川県は「第5次神奈川県ニホンジカ管理計画」を策定しており、計画の中で箱根地域はシカの定着を防止する地域として「定着防止区域」に指定されている。現在、他の主体による捕獲が実施されていない高標高の稜線域で、必要に応じて委託やワイルドライフレンジャー（WLR）による管理捕獲を実施している。

神奈川県の管理捕獲による捕獲数の推移は以下の通りである（図 2-2-1、図 2-2-2）。



※WLR：ワイルドライフレンジャー

\*2019年は台風による林道被災の影響を受けた。

\*2021年と2022年の箱根（委託）には、捕獲事業者へのわな捕獲委託も含む。

図 2-2-1 神奈川県の管理捕獲の捕獲頭数の推移

出典：令和5年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討会 検討会資料

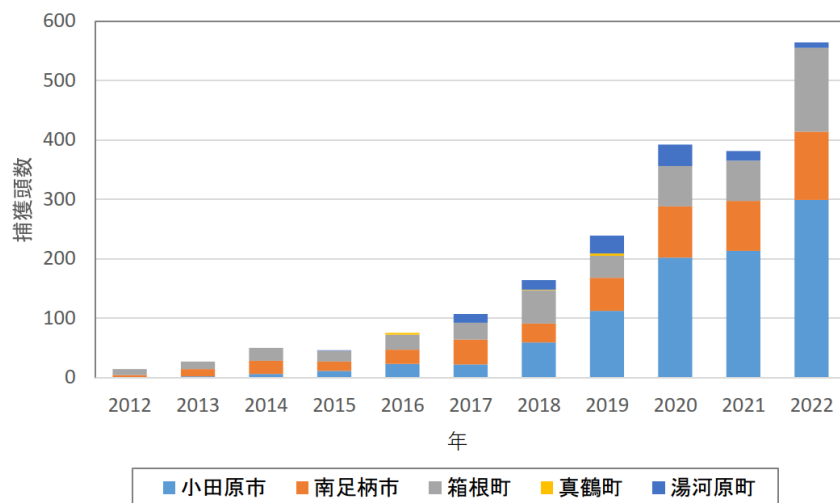


図 2-2-2 箱根山地を含む市町による捕獲実績

出典：令和5年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討会 検討会資料

## (2) 箱根町

箱根町は、「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律」に基づき、「箱根町鳥獣被害防止計画」を策定し、イノシシとシカによる被害防止のための事業を実施している。計画に基づき箱根町鳥獣被害防止対策協議会が設置され、鳥獣被害対策実施隊が管理捕獲にあっている。また、併せて猟友会及び町による、住民からの通報に基づく有害鳥獣捕獲を通年で実施している。町、猟友会、実施隊による捕獲と別に、一般町民による有害鳥獣捕獲も実施している。箱根町と猟友会箱根支部の管理捕獲による捕獲数の推移は以下の通りである（図 2-2-3）。

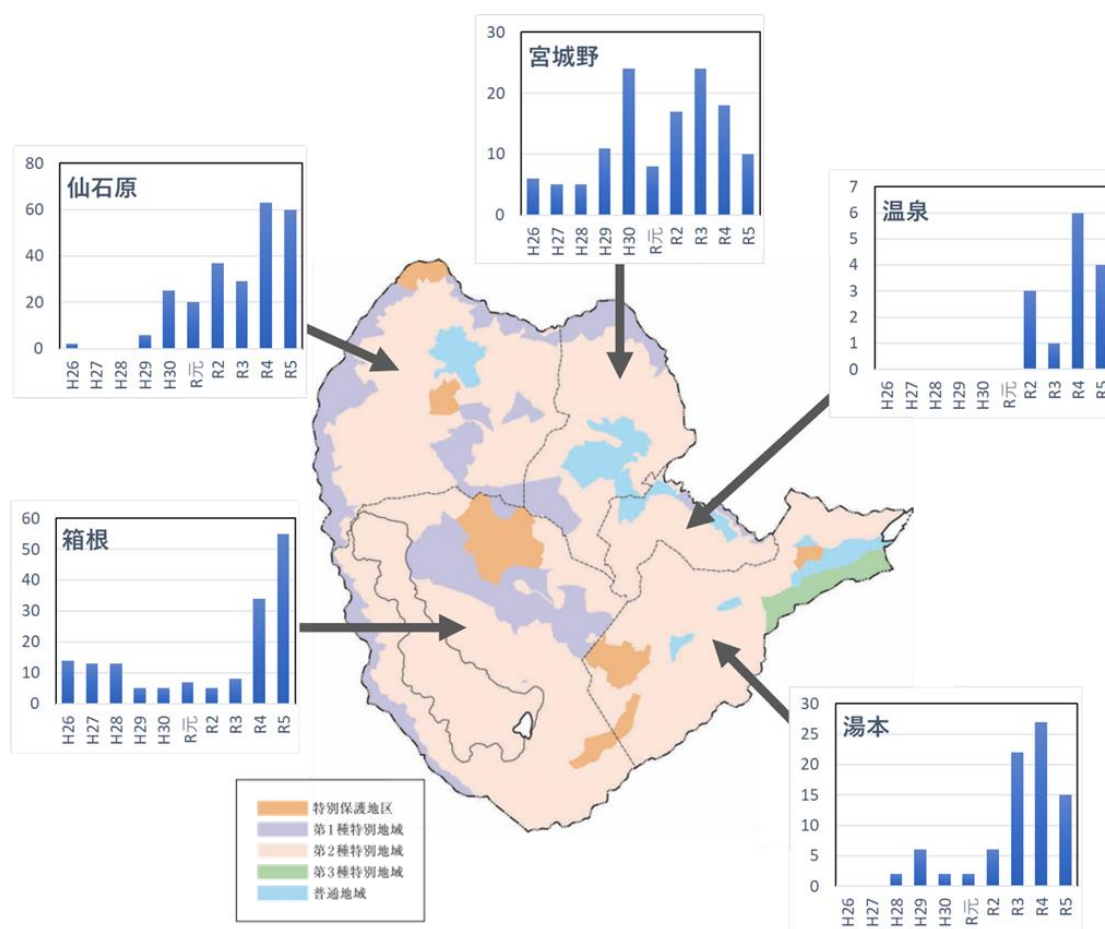


図 2-2-3 箱根町と猟友会箱根支部による地域別捕獲数の年次変化

※R5 は、R5. 12 末までの捕獲数

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討会 検討会資料

### (3) 静岡県

静岡県は「第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）（第5期）」を策定し、箱根地域について、生息密度が上昇傾向にあるため、分布拡大を抑制する効果の高い捕獲が必要な地域に位置づけている。このため、2021（令和3）年度から金時山北麓において認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲活動を強化するとともに、県境でのシカ捕獲を更に推進するため2022（令和4）年度に「箱根山地域広域捕獲計画」を策定し、2023（令和5）年度は強化する範囲を南側の御殿場市、裾野市まで拡大した。静岡県の管理捕獲による捕獲数の推移は以下の通りである（表2-2-1）。

表2-2-1 箱根地域の捕獲頭数と関係市町の捕獲頭数（狩猟＋有害＋管理）の推移

（単位：頭）

市町名	捕獲区分	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小山町	狩猟	157	144	172	170	156	131
	有害捕獲	60	103	171	114	118	180
	管理捕獲	369	373	336	865	846	1,056
	小計	586	620	679	1,149	1,120	1,367
御殿場市	狩猟	122	138	185	227	181	132
	有害捕獲	309	350	494	694	655	701
	管理捕獲	418	317	271	315	308	258
	小計	849	805	950	1,236	1,144	1,091
裾野市	狩猟	98	126	121	144	154	136
	有害捕獲	116	97	125	113	50	82
	管理捕獲	260	164	357	750	721	657
	小計	474	387	603	1,007	925	875
三島市	狩猟	1	15	6	1	11	6
	有害捕獲	70	35	83	60	39	75
	管理捕獲	0	0	8	127	138	199
	小計	71	50	97	188	188	280
合計		1,980	1,862	2,329	3,580	3,377	3,613

出典：令和5年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討会 検討会資料

※各捕獲頭数は市町単位でまとめているため、箱根地域以外で捕獲された捕獲頭数も含む。

### (4) 東京神奈川森林管理署

東京神奈川森林管理署では職員実行により芦ノ湖西岸においてニホンジカ有害鳥獣捕獲を実施している。2023（令和5）年度の捕獲実績は表の通りである（表2-2-2）。

表2-2-2 芦ノ湖西岸における東京神奈川森林管理署実施の捕獲頭数

	オスシカ	メスシカ	合計
2024年11月	2頭	2頭	4頭

出典：令和5年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討会 検討会資料

### (5) 駒ヶ岳モデル地区

箱根地域でより効果的に捕獲を実施するため、中央火口丘の駒ヶ岳周辺において、集中して捕獲及びモニタリングを行う駒ヶ岳モデル地区を設定し(図 2-2-4)、箱根地域での効果的なシカの個体群管理のための基礎情報を収集する。駒ヶ岳モデル地区では 2023 (令和 5) 年度捕獲が行われた(表 2-2-3)。

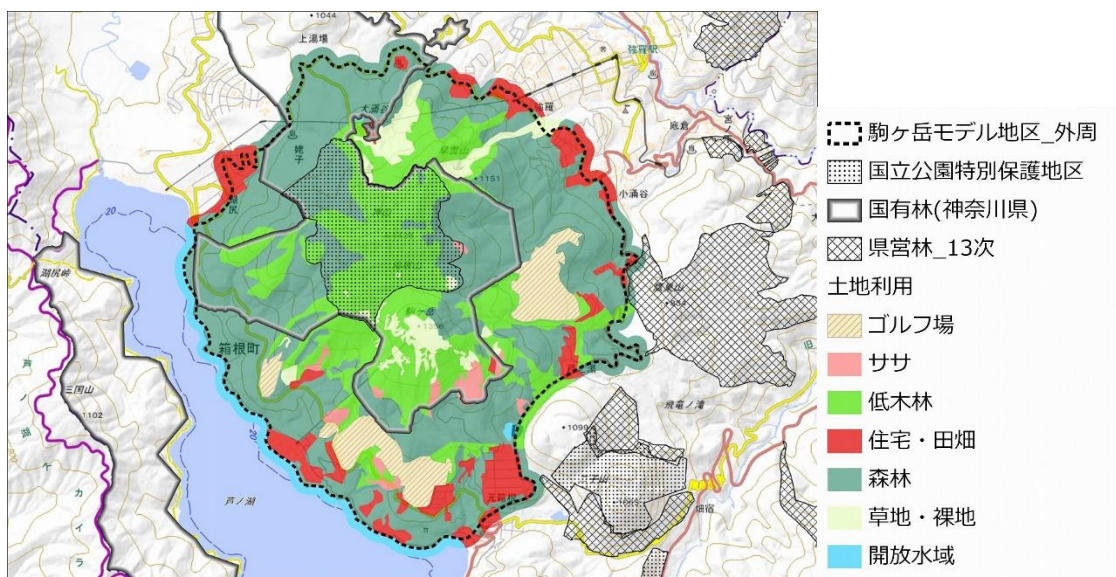


図 2-2-4 駒ヶ岳モデル地区

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務  
電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成

表 2-2-3 駒ヶ岳モデル地区における捕獲頭数

	オスシカ	メスシカ	合計
2023 年 11 月	7 頭	13 頭	20 頭
2023 年 12 月	1 頭	2 頭	3 頭
2024 年 1 月	6 頭	7 頭	13 頭
合計	14 頭	22 頭	36 頭

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

## 3. シカの生息地管理

### (1) 箱根町におけるシカに関する被害通報件数

市街地へのシカの出没を抑制するための防鹿柵の設置や緩衝帯の整備の可否を判断するために、シカの市街地出没の状況を把握する必要がある。ここでは箱根町に寄せられたシカに関する被害通報件数を集計する(表 2-3-1)。

表 2-3-1 箱根町に寄せられたシカ被害に関する被害通報件数の推移

地域	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
湯本	0	0	2	1	0	0	1	0	3	6
温泉	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1
宮城野	0	0	0	0	0	6	0	0	1	8
仙石原	0	3	3	3	0	4	7	3	17	9
箱根	0	0	1	0	3	2	0	1	5	8
合計	0	3	7	5	3	12	8	5	26	32

※令和5年度は2月末日時点

(2) ゴルフ場における防鹿柵設置状況

新植地やゴルフ場等はシカの好適な採餌場所となりうる。ここでは、箱根地域のゴルフ場にヒアリングしたシカの被害状況、防鹿柵設置状況等をまとめる（表 2-3-2）。

表 2-3-2 箱根地域のゴルフ場の柵設置状況

	柵の設置有無と構造	柵の距離	柵の維持管理	シカの被害
富士 CC	あり（イノシシ用） 単管パイプを用いた手作り柵	約 8km	2 回/年 わな点検等の時に随時	わずかにあり
富士屋ホテル仙石 GC	あり（シカ用） ワイヤメッシュ柵、ネット柵	約 2km	1 回/年 破損があるときは随時	あり
ホテルベルビュー一長尾 GC	あり（イノシシ用） 電気柵とネット柵の 2 重	外周 1 周	随時点検し、補修	あり
箱根 CC	あり（シカ用） ワイヤメッシュ柵	約 5km	日々のコース点検時に随時 台風等の後は必須	あり
レンブラント GC 御殿場	あり（イノシシ用） 電気柵	7～8km	1.5 回/月の簡易点検 1 回/年の点検	あり
箱根湯の花 GC	あり（イノシシ用） 電気柵	5～6km	他作業の時に随時	あり
小田原湯本 CC	あり（イノシシ用） ワイヤメッシュ柵	6km 弱	1 回/年（冬期）	ほぼない
箱根園ゴルフ場	あり（イノシシ用） 電気柵とネット柵の 2 重	約 5km	夏：2 回/月 冬：4 回/月	あり
小田原城 CC	あり（イノシシ用） ワイヤメッシュ柵の 2 重	13～14m	1-2 回/月	ほぼない
芦の湖 CC	あり（イノシシ用） 電気柵	外周 1 周	1 回/月	あるが大きくない
箱根くらかげゴルフ場	あり（イノシシ用） 電気柵	約 4km	1 回/月	あり

※箱根地域には上記表以外にもゴルフ場がある。よって全てのゴルフ場のデータではない。

※北から南に並べている。

出典：令和元年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

令和2年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

#### 4. シカの生息状況に係るモニタリング及び評価

##### ① 区画法調査

神奈川県により隔年で1区画の区画法が実施されている。2022（令和4）年度における生息密度は南足柄市内山で約8頭/km<sup>2</sup>、箱根町宮城野で約1頭/km<sup>2</sup>と評価されている。

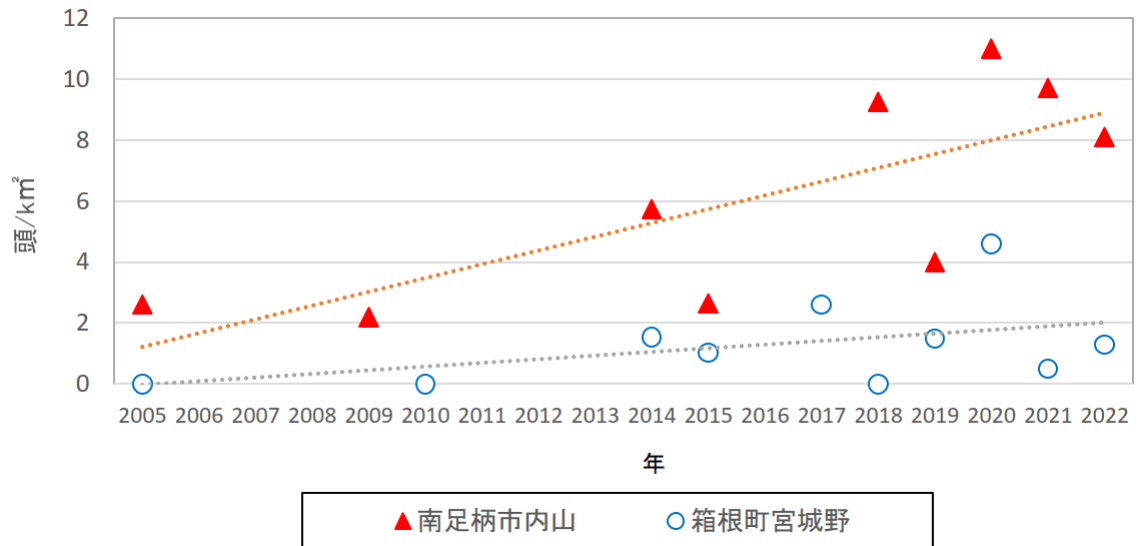


図 2-4-1 南足柄市内山・箱根町宮城野における区画法による生息密度調査結果

出典：令和5年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討会 検討会資料

## ② 糞塊法調査

環境省により 2009（平成 21）年度に 1 回（図 2-4-2 左）、神奈川県により 2007（平成 19）年度より毎年（図 2-4-2 右）、糞塊法調査が行われている。2007（平成 19）年度調査において箱根地域で糞塊が記録された後、毎年糞塊が記録されている。

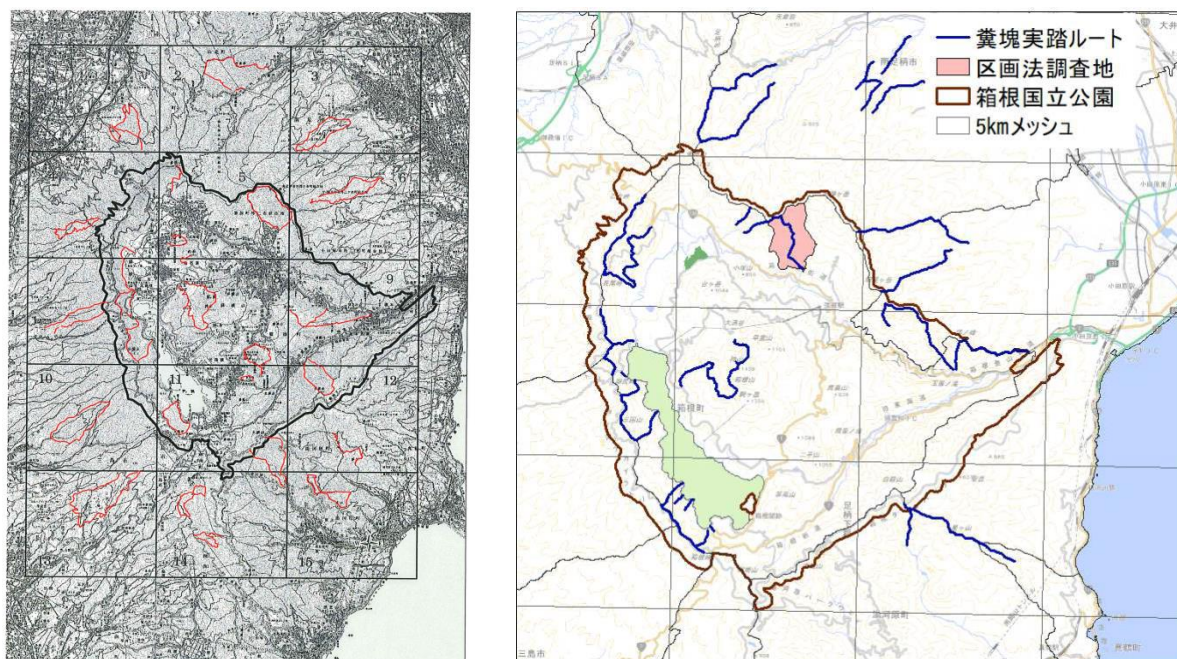
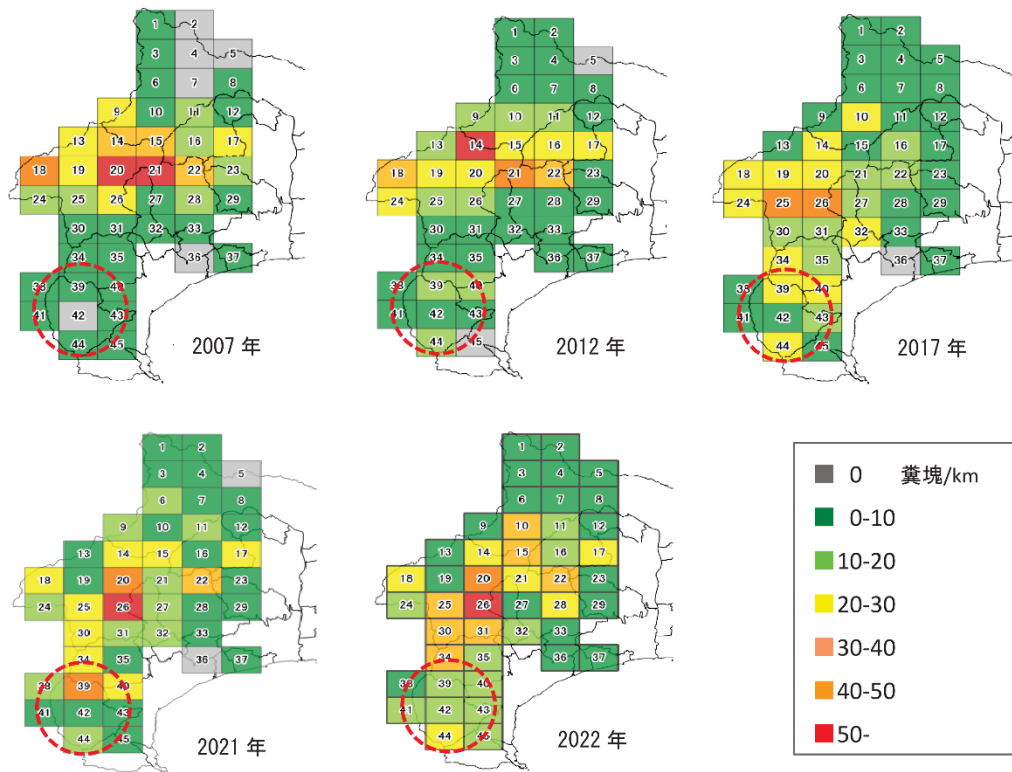


図 2-4-2 調査区画と糞塊法調査ルート（左：環境省ルート、右：神奈川県ルート）

出典：平成 21 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域ニホンジカ植生被害に係る生態系維持回復のための予備的調査（環境省）

令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討会 検討会資料

電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成



※メッシュサイズは約5km 四方。メッシュ内の踏査ルート 1km あたりの糞塊数で色分けした。

図 2-4-3 糞塊密度（糞塊数/km）の推移（10 粒以上の糞塊）

出典：第 5 次神奈川県ニホンジカ管理計画を一部改変

### ③ 生息数の推定

神奈川県により、過年度の捕獲数と各種モニタリングデータを用いてハーベストベースドモデルに基づく階層ベイズモデルにより生息数が推定されている（図 2-4-4）。箱根町は定着防止区域（南）に位置付けられている。

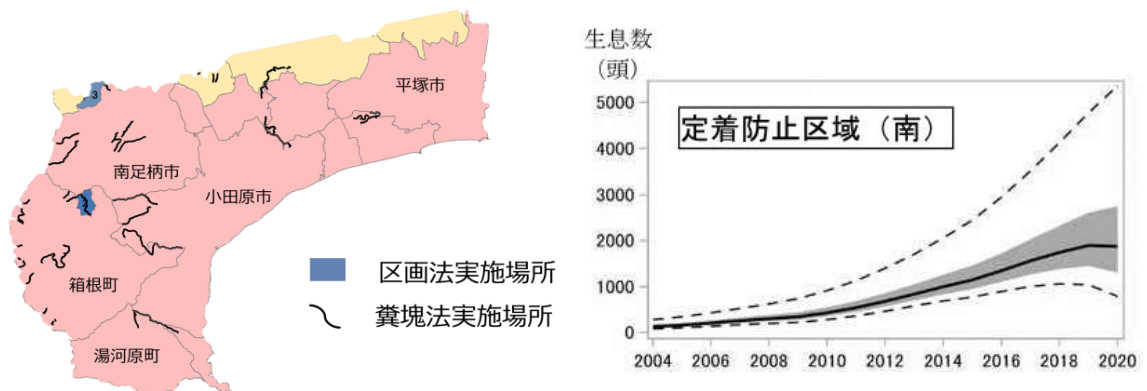


図 2-4-4 定着防止区域（南）の範囲と同地域における生息数推定結果

出典：平成 26 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域における生態系維持回復のための調査業務  
第 5 次神奈川県ニホンジカ管理計画



## (2) 自動撮影カメラによる調査

### ① 箱根のシカの生息状況把握

環境省により 2014（平成 26）年度に長尾峠下、三国山、白浜、駒ヶ岳に各 1 台、仙石原森林縁と仙石原湿原内を合わせて 10 台の自動撮影カメラが設置された。その後、2017（平成 27）年に仙石原、2020（令和 2）年に芦ノ湖西岸、2022（令和 4）年に中央火口丘にそれぞれ追加設置されモニタリングが実施されている（図 2-4-5）。なお、芦ノ湖西岸、駒ヶ岳、仙石原には東京神奈川森林管理署の自動撮影カメラも設置されており、撮影データの提供を受けて解析を行っている。

その結果、仙石原湿原は植生保護柵の設置とともに撮影頻度は横ばいになった。中央火口丘（駒ヶ岳モデル地区、二子山）、芦ノ湖西岸は増加傾向が続いている（図 2-4-6）。

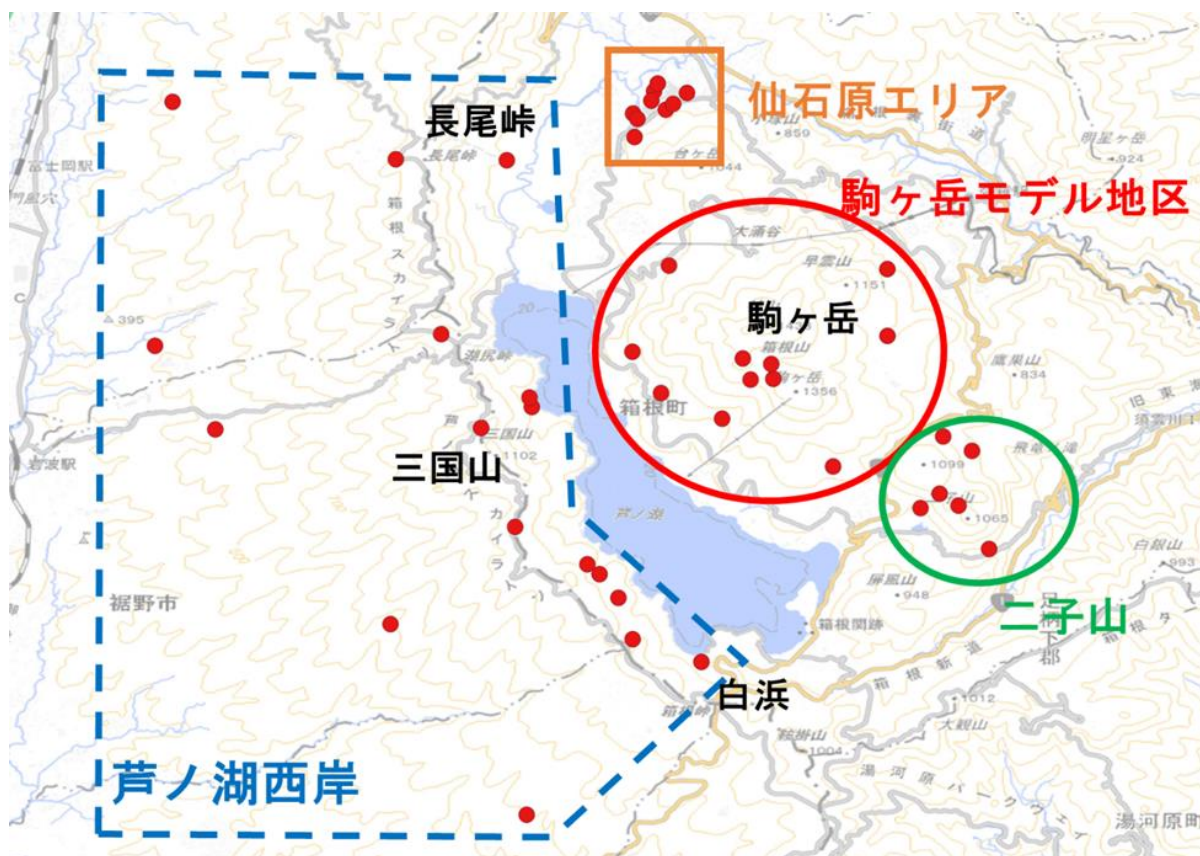


図 2-4-5 自動撮影カメラ設置地点

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務  
電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成

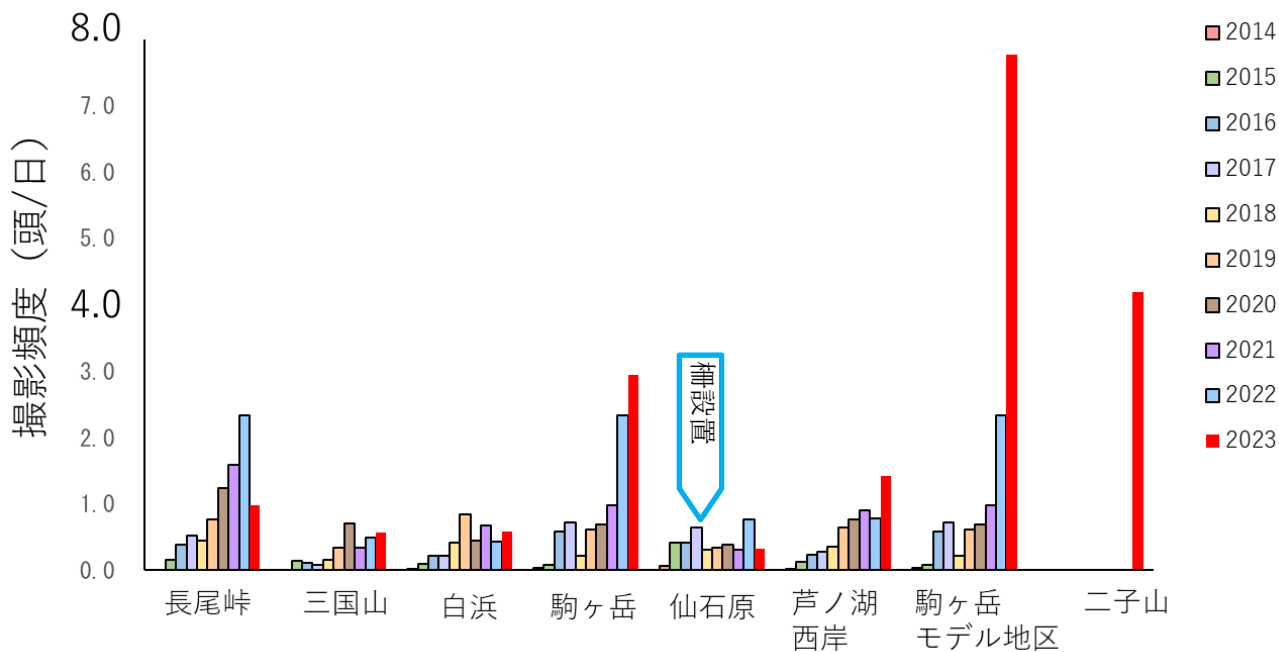


図 2-4-6 自動撮影カメラの撮影頻度

※仙石原は仙石原エリアに設置されたカメラ（2014-2016=6 台、2016-2021=15 台、2022=10 台、2023=8 台）の合計

※芦ノ湖西岸は芦ノ湖西岸に設置されたカメラ（2014-2020=3 台、2021-2022=9 台、2023=12 台）の合計

※駒ヶ岳モデル地区は駒ヶ岳モデル地区に設置されたカメラ（2014-2022=1 台、2023=10 台）の合計

※東京神奈川森林管理署提供のデータを含む。

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務

## ② 明神ヶ岳・火打石岳におけるシカの生息状況

神奈川県により明神ヶ岳・火打石岳の外輪山外側に 125 台の自動撮影カメラが設置されている。撮影頻度は令和 1 年度から令和 3 年度まで横ばいであるが、火打石岳周辺でスポット的に高い地域が認められた。

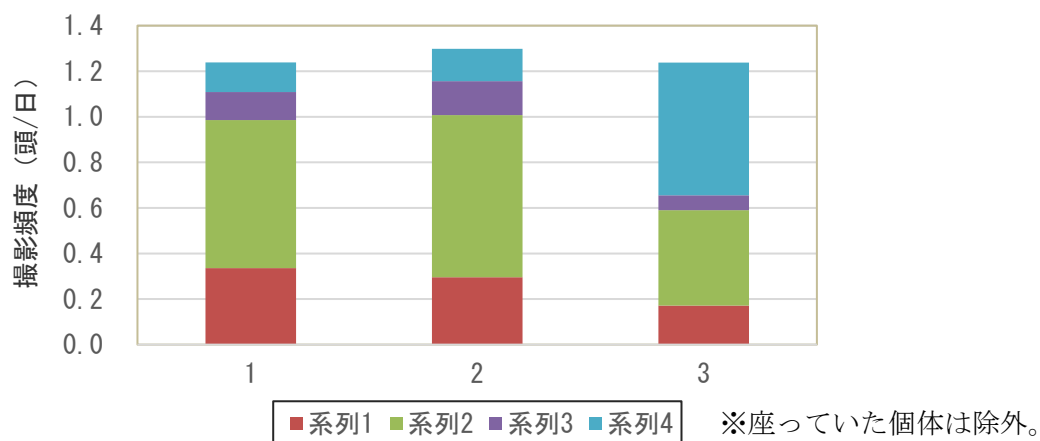


図 2-4-7 明神ヶ岳・火打石岳の自動撮影カメラ撮影頻度の経年変化

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討会 検討会資料

## ③ 芦ノ湖西岸におけるシカの生息状況

芦ノ湖西岸においては、環境省及び東京神奈川森林管理署の自動撮影カメラが設置されている。調査の結果、aw06 など一部でスポット的に高い撮影頻度が観察された。各地点で時期により撮影頻度は異なるが、変化の様態は多様であり全体として同様の傾向は見られなかった（図 2-4-8）。

静岡県側

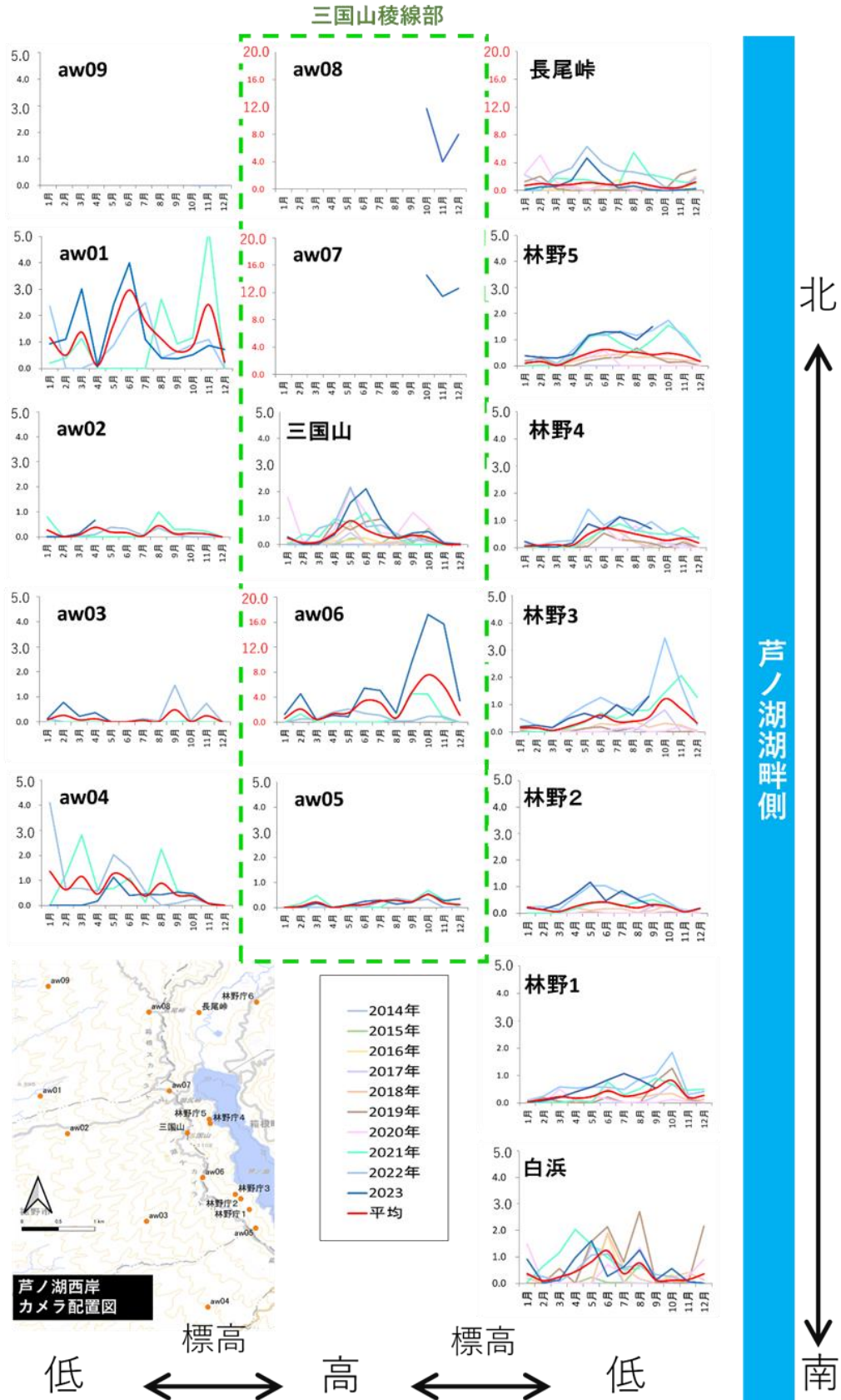


図 2-4-8 芦ノ湖西岸のカメラごとの月別撮影頻度の変化

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務  
電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成

#### ④ 中央火口丘におけるシカの生息状況

駒ヶ岳モデル地区を含む中央火口丘（駒ヶ岳、二子山）は、希少種の生育数も多く、簡易植生モニタリングの結果から急激に植生の衰退が進行していることが明らかとなったため、2022（令和4）年度に自動撮影カメラを多数設置し17台でモニタリングを実施している（図2-4-9）。その結果、駒ヶ岳山頂部では繁殖期である9月から撮影頻度が増えること、二子山ではオス比率が高いことが明らかとなった。

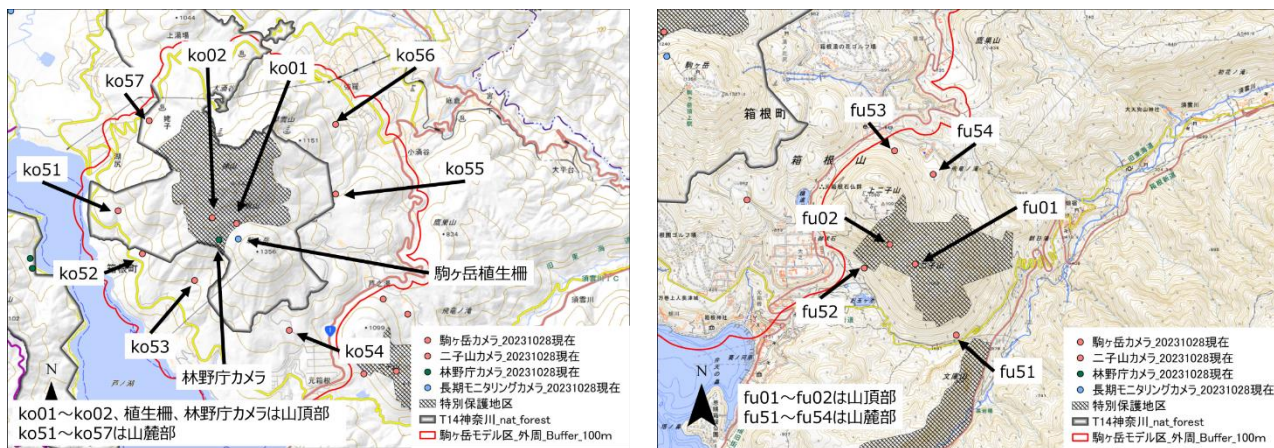


図2-4-9 自動撮影カメラ設置地点（左：駒ヶ岳、右：二子山）

出典：令和5年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務  
電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成

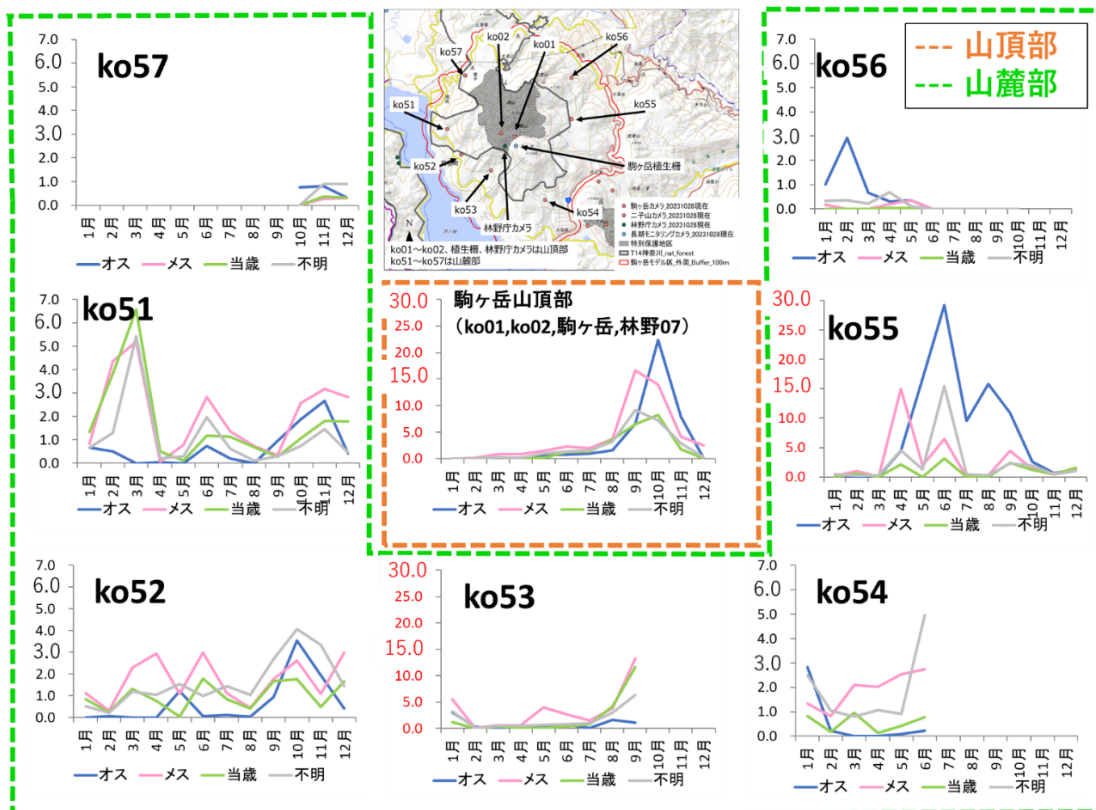


図 2-4-10 駒ヶ岳モデル地区における月別撮影頻度 (頭/日)

※ko57 は 2023 年 10 月末に設置。

※駒ヶ岳山頂部、ko53、ko55 の撮影頻度は他地点に比べ高く、縦軸のスケールが他地点と異なっていることに注意。

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務  
電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成

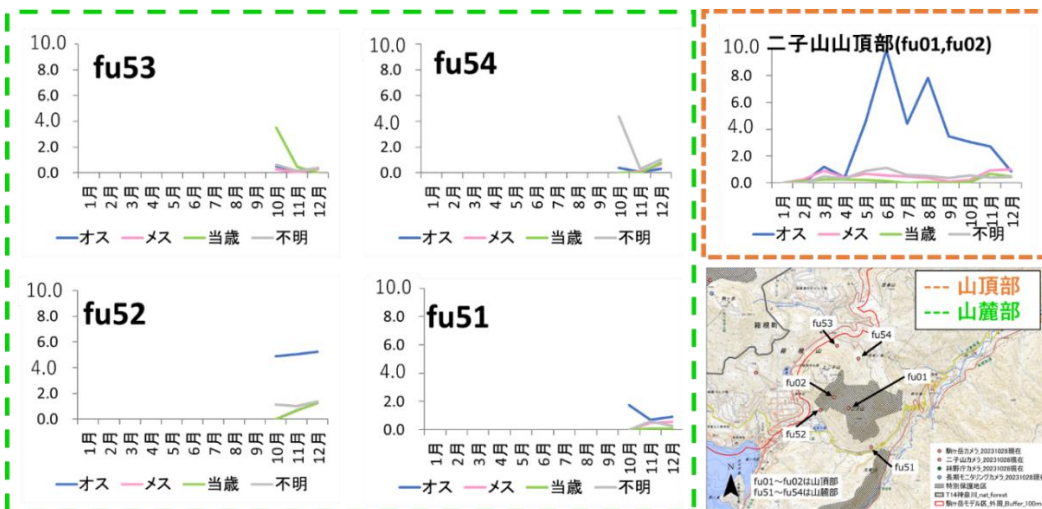


図 2-4-11 駒ヶ岳モデル地区における月別撮影頻度 (頭/日)

※fu51～fu54 は 2023 年 10 月末に設置。

出典：令和 5 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務  
電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成

### ⑤ 仙石原湿原における植生保護柵の効果検証

仙石原湿原には 2017 年度から植生保護柵の設置が開始され、それまでの自動撮影カメラの撮影頻度の増加傾向は止まり横ばいとなった（図 2-4-6）。しかし、現在も柵内でシカの撮影があり（図 2-4-12）、植生保護柵の維持管理を継続して実施する必要がある。

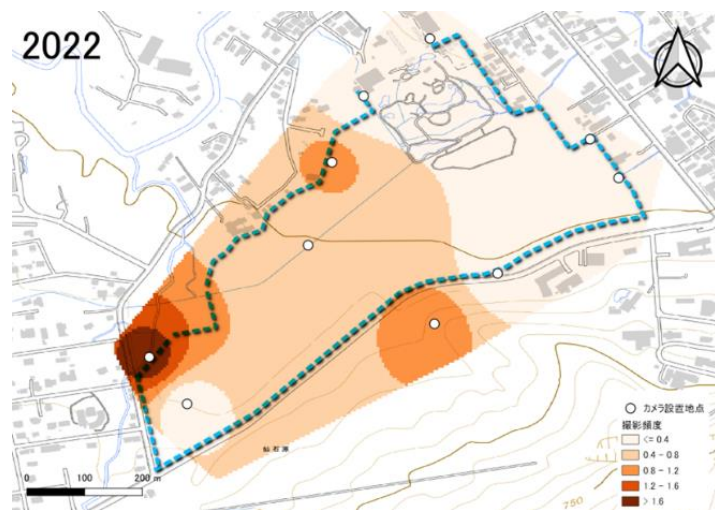


図 2-4-12 仙石原湿原におけるシカの地点別の撮影頻度

出典：令和 4 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務  
電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成

### （3）周辺域における情報収集

富士箱根伊豆国立公園箱根地域は箱根町を中心として 9 市町にまたがる（図 2-0-1）。これら 9 市町の捕獲状況については平成 28 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務報告書にまとめられている。

### （4）DNA 分析

環境省により、箱根地域周辺で捕獲された 6 頭のシカのミトコンドリア DNA（mtDNA ハプロタイプ）が分析された。その結果、3 頭が富士山・丹沢地域個体群由来の個体であり、3 頭が伊豆半島地域個体群由来であることが判明した（表 2-4-1）。箱根地域ではこれら 2 地域からシカが流入していることが示唆された。

表 2-4-1 箱根町で捕獲された 6 個体の分析結果

番号	捕獲日	捕獲位置のメッシュ番号	性	mtDNAハプロタイプ	起源と推測される地域個体群
1	2014/11/17	5239701	オス	C	富士山・丹沢
2	2014/11/23	5239601	メス	I	伊豆
3	2014/11/29	5239701	メス	C	富士山・丹沢
4	2014/12/4	5239701	メス	G	富士山・丹沢
5	2014/12/7	5239601	オス	I	伊豆
6	2015/2/28	5239601	メス	I	伊豆

注)mtDNAハプロタイプはYuasa et al. (2007)に基づき、D-loop領域の部分配列(463bp)にて決定した。

出典：平成 26 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域における生態系維持回復のための調査業務報告書を一部改変

## 5. 普及啓発

### (1) 植生調査等を通じた普及啓発（指標植物モニタリング）

環境省により 2021（令和 3）年度に指標植物モニタリングの試行調査が行われた。指標植物モニタリングは植物の同定に不慣れな調査者を想定し、調査対象の指標植物を 4 種に限定し、その食痕率から箱根地域の植生への影響を評価する手法である。調査結果から食痕率と長期影響度との関係を調べ、長期影響度を推定した（図 2-5-1、図 2-5-2）。

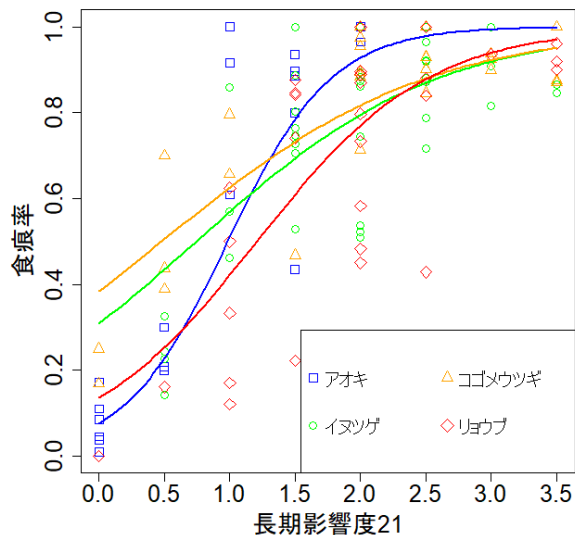


図 2-5-1 食痕率と長期影響度の関係

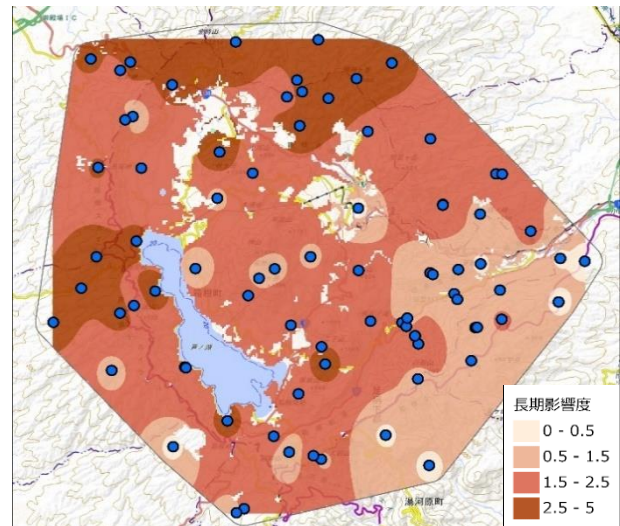


図 2-5-2 食痕率から推定された長期影響度

（青点は調査地点を示す）

出典：令和 3 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ管理対策検討調査業務電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成



## (2) 広報を通じた普及啓発

仙石原の植生保護柵の意義、箱根地域のシカ管理の取り組みを広く普及啓発するためにチラシの作成を行った。ここではこれまでの実績を整理する（表 2-5-1）。

表 2-5-1 チラシの作成

開催年	タイトル	内容
2014(H26)年度	箱根のシカ情報募集！	箱根のシカ目撃情報を広く収集するためチラシを配布し、Web アンケートフォームを作成し情報を集めた。
2014(H26)年度	箱根地域で増えるシカ ーシカが増えるとどうなるの？ー	シカの生活史の説明、全国及び神奈川県での生息状況の紹介。シカが増えたときの自然や植生の変化を説明。
2014(H26)年度	仙石原湿原の保全 ー富士箱根伊豆国立公園の仙石原湿原ー	仙石原湿原の形成過程や希少な動植物を紹介。シカの進入状況とシカが湿原植生に与える影響の説明。
2017(H29)年度	箱根地域のシカ対策 ー箱根地域のシカが分かる Q & Aー	簡易植生モニタリング調査の結果を用いてシカが植生に与える影響を説明。シカ対策として植生保護柵（仙石原湿原植生保護柵）の設置、個体数調整を実施していることを説明。
2017(H29)年度	仙石原湿原の保全対策	仙石原湿原の希少植物とシカの進入状況を説明し、植生保護柵の意義を説明。
2018(H30)年度	箱根地域のシカ対策	シカが増えたときの植生の変化を説明し、希少植生保護（仙石原植生保護柵）、個体数調整、モニタリング等のシカ管理対策を説明。
2018(H30)年度	仙石原湿原における植生保全活動	仙石原湿原の希少植物の紹介、山焼きによって維持される半自然草原であることの説明。湿原内の植生調査によるシカの影響評価と設置が進む植生保護柵の意義の説明。
2021(R3)年度	シカの影響と箱根の森の現状	箱根地域の希少植物を紹介し、簡易植生モニタリング調査による植生衰退の状況、指標植物モニタリングの結果を説明し、箱根地域のシカ対策の現状を説明。

### (3) 各種団体との協力や各種会合を通じた普及啓発

箱根地域では自然や観光に関連する種々の団体等が活動している。また箱根町には自然環境を対象とした施設も複数ある。それら団体と協力して実施した研修会、住民説明会等を整理する。

表 2-5-2 研修会・講習会

開催年	開催形態 主催者	内容
2020(R2)年度－ 2023(R5)年度	研修会 小田原イノシカネット	シカの生態、箱根地域のシカ管理の現状を説明し、参加者のシカ管理に対する理解を促進した。現地実習として植生調査の現場等を視察し、シカが植生に与える影響を研修した。
2021(R3)年度－	講習会 静岡県	学生を対象とした狩猟免許取得のための予備講習を実施した。
2023(R5)年度	研修会 HakoneDeerAction	シカの生態、箱根地域の植生の特徴とシカ管理の現状を説明した。現地実習としてシカが植生に与える影響、シカのモニタリング手法(自動撮影カメラ)の特徴等を研修した。

表 2-5-3 シンポジウム・住民説明会

開催年	開催形態 主催者	内容
2015(H27)年度	シンポジウム 環境省	箱根の自然の豊かさとシカ管理の必要性について市町村、県を越えて広く市民に向けて説明した。
2015(H27)年度	ワークショップ 環境省	箱根の自然の豊かさとシカ管理の現状について箱根町内の住民に向けて説明した。
2016(H28)年度	住民説明会 環境省	仙石原湿原の自然の希少性と植生保護柵設置の必要性について説明した。

## 6. 関係する計画

箱根地域でシカの対策を進める上で関係する法律として、「自然公園法」、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」、「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置法に関する法律」、「森林法」、「国有林野の管理経営に関する法律」の5法がある。上記法律に基づいて現在箱根地域では、生態系維持回復事業計画（環境省・農林水産省）、ニホンジカ管理計画（神奈川県）、第二種特定鳥獣管理計画（静岡県）、鳥獣被害防止計画（箱根町）、第6次地域管理経営計画書（関東森林管理局）、神奈川県国有林の地域別の森林計画書（関東森林管理局）を策定している。また、仙石原湿原においては、国、県、町によって仙石原湿原保全計画書を策定している。

### （1）生態系維持回復事業計画

環境省及び農林水産省では「自然公園法」に基づき「富士箱根伊豆国立公園箱根地域生態系維持回復事業計画」を策定し（2017（平成29）年10月）、同計画に基づく事業を実施している。

### （2）富士箱根伊豆国立公園箱根地域ニホンジカ管理計画

富士箱根伊豆国立公園箱根地域の行政機関や関係団体で「富士箱根伊豆国立公園箱根地域ニホンジカ管理協議会」（事務局：富士箱根伊豆国立公園管理事務所）を2024年2月に設立した。同協議会において、箱根地域及び近隣地域における生物多様性の保全（あるべき生態系の維持、希少植物の地域絶滅の防止）を図るとともに、観光業及び農林業との調和を図るため、本計画（富士箱根伊豆国立公園箱根地域ニホンジカ管理計画）を策定している。

### （3）神奈川県ニホンジカ管理計画

神奈川県では「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」の「第二種特定鳥獣管理計画」に基づき「第5次神奈川県ニホンジカ管理計画」を策定し（2023（令和5）年3月）、同計画に基づく管理事業を実施している。

「第5次神奈川県ニホンジカ管理計画」において、箱根地域は「定着防止区域」として位置付けている。

### （4）静岡県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）

静岡県では「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づき「第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）（第5期）」を策定し（2022（令和4）年3月）、同計画に基づく管理事業を実施している。また、指定管理鳥獣捕獲等事業の実施にあたり、神奈川県と協働で「箱根山地域広域捕獲計画」を策定し、連携して捕獲を行っている。

静岡県は3つの管理地域区分を設定し管理を行っている。箱根地域に含まれる三島市、裾野市、御殿場市、小山町は「富士地域」に属し、函南町は「伊豆地域」に属する。

#### (5) 箱根町鳥獣被害防止計画

箱根町では「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律」に基づき「箱根町鳥獣被害防止計画」を策定し（2023（令和5）年3月）、イノシシとシカによる被害防止のための事業を実施している。

同計画に基づき、箱根町有害鳥獣被害防止対策協議会を設置し、同協議会が組織する鳥獣被害対策実施隊が被害防止目的の捕獲にあたっている。

#### (6) 第6次地域管理経営計画書（神奈川森林計画区）

「国有林野の管理経営に関する法律」に基づき、森林計画区（流域）別の国有林野を対象として、「管理経営基本計画」に即し「国有林の地域別の森林計画」との調和を保ち、国有林野の管理経営に関する基本的な事項や維持及び保存に関する事項等について定めている。同計画では箱根をヒメシャラやハコネコマツツジなど希少な群落を保護する自然維持タイプ、レクリエーションの森として森林空間利用タイプ等に区分して管理している。

#### (7) 神奈川県国有林の地域別の森林計画書（神奈川森林計画区）

神奈川国有林の地域別の森林計画は、森林法（昭和26年法律第249号）第7条の2第1項に基づき、同法第4条第1項の全国森林計画に即して関東森林管理局長がたてた、神奈川森林計画区の国有林についての森林の整備及び保全の目標に関する計画である。同計画では箱根を鳥獣害防止森林区域に指定し、森林の適確な更新及び造林木の確実な育成を図ることを旨として、シカを対象として鳥獣害防止対策を推進している。

#### (8) 仙石原湿原保全計画書

神奈川県唯一の湿原である仙石原湿原において、湿原としての環境保全と生物多様性の維持のために、国、県、町の連携によって第1期が2000（平成12）年4月、第2期が2013（平成25）年3月、第3期が2022（令和4）年4月に策定された。湿原を維持管理していくために必要な管理手法や対策の方針、役割分担等が定めている。

